

要配慮者の災害時ケアプランナー研修講習案

対象 : ケアプラン作成に関わる福祉専門職、福祉関係部局職員、危機管理関係部局職員

会場 : 両日ともに、人と防災未来センター東館 6 階会議室（兵庫県中央区）
 阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約 10 分
 JR「灘」駅南口から徒歩 12 分
 阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約 20 分

受講料 : 無料

1 日目	第 1 講 (13:40~15:10)	第 2 講 (15:20~16:50)		
2 日目	第 3 講 (9:30~11:00)	第 4 講 (11:10~12:40)	第 5 講 (13:40~15:10)	第 6 講 (15:20~16:50)

	内容と準備物	ねらい	学習目標
DET (障害平等教育) 第 1 講	内容 : 障がい者ファシリテーターによる演習授業 (個人+グループワーク) ・イラスト・動画分析 ・事例検討 など	今後の授業および災害時ケアプラン作成に必要な「 障害の社会モデル 」的視点で解決すべき課題を発見する技能を身につける。	「 障害の社会モデル 」の考え方、視点を、今一度体感しながら身に着ける。 災害時に発生するであろう課題を障害の社会モデル視点で見つけられるようになる。
	準備物 : ・特定非営利活動法人 障害平等研修フォーラムの教材 ・WS グッズ *準備物のリストが別途届く		
災害とは何か 第 2 講	内容 : 災害を正しく理解するための講義と、それを伝えるための様々な技法についての演習	災害リスク = f (ハザード, 脆弱性) を理解する。 第 1 講の DET と連動させる (課題を見つける→どう解決するか考える)	自分たちのまちの「脅威」を正しく理解し、それを他者に伝えるためのツールや技術を身につける。
	準備物 : ・講義資料 (鈴木直下型地震含む) ・DIG セット		

	内容と準備物	ねらい	学習目標
災害時ケアプラン策定業務 第3講	内容：ケアプラン作成のコーディネーター的役割を担う人（コミュニティ・ソーシャルワーカー）の講演を聴く	災害時ケアプラン全体の考え方や作成時に必要になる心構えやノウハウ、想定される課題やその解決方法について、事例を通して学ぶ。	実際に地域に持ち帰って業務を行う際のモチベーションや目指すべき方向性の指針（知識ベース）を獲得する。
	準備物： ・資料 ・M計画の知識ベース ・村野さん+村野語通訳者		

当事者アセスメント 第4講	内容：当事者力を正しくアセスメントし、必要なそなえを自覚させるためのキットの使い方の演習（グループワーク）	「(災害によって顕在化した) 環境要因 」によって生まれた障壁によって、「 活動と参加 」が阻害されるという障害の社会モデル(ICF)の視点から、リスクに対して必要なそなえを考える。 おそらく弱いであろう近隣とのつながりが大切であることに気づく。	当事者や家族が、平時に活用している支援サービスを改めて自覚させる。 アセスメントを通して当事者や家族の自助力を高める、 当事者エンパワメント を引き出す手法を身に着ける。 考えられる被害想定（ライフラインによる生活への支障）から、必要なそなえについてアドバイスできる。
	準備物： ・〇〇町のハザードマップ ・自分で作る安心防災帳×50 ・3D眼鏡×50 ・要配慮者の方（4～5人）		
調整会議演習 第5講	内容：地域住民を交えての調整会議のシミュレーション演習（グループワーク）	グループワークで、調整会議を模擬的に体験する。 普段業務では接することのない地域住民（自治会役員）との関係性づくりを体感する。	実際に地域に持ち帰って業務を行うにあたって、「できないことではない」と思ってもらおう。 エコマップ の作り方について復習する。
	準備物： ・WSグッズ ・要配慮者（4～5人） ・地域住民役の方（4～5人）		
暫定プランの発表とふりかえり 第6講	内容：第6講で作成した暫定の災害時ケアプランについて、報告して検討する。（グループワーク） e-learningを含む研修全体のふりかえり	それぞれのグループで作成した暫定の災害時ケアプランについて、その作成手順、意図、感想を全体で共有する。 研修の改善のための意見をもらう。 持って帰ってもらうモノ・コトを整理する。	多様な課題について、より多くの事例に触れる。 自グループとは違う視点、考え方を知る。 災害時ケアプラン作成の必要性を認識し、担当地域での実施方法を考える際のヒントを持って帰る。
	準備物： ・WSグッズ		